



WORKERS'COOP



ともに生きる ともにはたらく

ワーカーズコープは、ともに生き、ともに働く社会を目指して、「協同労働」という働き方を実践してきました。

「よい仕事」を通じた一人ひとりの成長と発達、違いを認め合い、話し合いによって互いの力を出し合う働き方によって、利用者や地域の人たちとも連帯しながら持続可能な地域社会の実現を目指しています。

はじまりは 誰かの「願い」



誰もが、ひとりでは生きられない。

誰もが、いつか生きづらさや働きにくさに直面する可能性がある。

困難を抱えた誰かが小さな声で叫ぶ「願い」を拾い上げること

ができれば、地域に暮らすみんなで支え合うことができれば、

ひとりでは超えられない壁も乗り越えていける。

この社会の未来に希望を失ってうつむいているのなら、

顔を上げて周りを見渡してみよう。小さな声に耳を傾けてみよう。

地域に必要なことや、困りごとを抱える誰かの願いが仕事となり、

地域の一人ひとりがその力を人のために生かし合えるなら、

この世界の未来はきっと輝く。



目次

仕事おこしの事例紹介	04
協同総合福祉拠点 みんなのおうち	06
新しい働き方 協同労働	08
協同労働を実現する新しい法人格 労働者協同組合	09
協同労働の実践事例紹介	10
ワーカーズコープについて「協同労働、35年の実践」	12
理事長メッセージ「共に生き、共に働く社会を目指して」	13
新しい公共実践事例「私たちが目指すのは、新しい公共」	14
組織概要	16
数字で見るワーカーズコープ	18
事業紹介	19
社会連帯活動	20
関連団体	21
法人沿革	22
協同労働の協同組合の原則	23



身近に困っている人がいる。
こういうことできないかな。
そうだ、

ないなら つくっちゃおう！

子育て支援事業

CASE STUDY_01

子どもたちの気付きの 共感者でいたい。

奄美くっかる / 鹿児島県奄美市

奄美大島の豊かさを地域の子どもたちの心の豊さにつなげていってほしい。森の家くっかるはそんな想いを実現しようと設立されました。子どもたちは感性が豊かで気づきの天才です。子どもが自然や生き物に触れて何かを感じ、全身に満足があふれる姿を邪魔することのない、こども自身が自らの力で育つことができる地域を地域のみんなでつくることに取り組んでいます。2009年に始まった小さな保育所は、地域のつながりの中で認可保育所・学童保育クラブ・就労継続支援B型・学習・生活支援という4つの事業に広がり、2023年は家庭でも学校でもない「第三の居場所」を開設しました。社会資源が不足しがちな離島だからこそ、色々な立場の人が集い、困ったことも楽しいことも共有し支え合える人の輪を広げています。



CASE STUDY_02

収穫のよろこびを 生きるよろこびに。

ふじみのそらまめ / 埼玉県ふじみ野市

そらまめは東日本大震災の復興支援のためにふじみ野市民が立ち上げたグループが源流です。ふじみの市の公営住宅に避難してきた被災者の支援をしていたところ、「息が詰まりそう...土に触れて畑がしたい」との声から、市内の農家さんの協力で皆で農作業することに。その時の皆さんの活き活きとした姿が、今のそらまめにつながりました。翌年、地域の活動を持続的にするために、デイサービス「そらまめ」を立ち上げました。目指したのは「自分の親を預けたいと

ワーカーズコープは想いを
多様な事業が集合した、
協同組合です。

CASE STUDY_03

すべての人に、 誇りに思える仕事と職場を

森の102工房・菓子工房 / 埼玉県所沢市

2012年、地元のとうふ屋さんから引き継ぐ形で「森の102(とうふ)工房」は始まりました。生きづらさを抱える若者や障がいを持つ人たちと一緒に働く職場づくりを進め、2015年、豆乳やおからを使ったお菓子を作る就労継続支援B型「森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房」を開店しました。ここで働く仲間たちは、年齢や性格、障がいの特性が異なり、また色々な挫折やあきらめを経てやってきます。だから私たちは「自慢できる職場にしよう」を目標にしています。有名店に負けないおいしいお菓子、みんなが来なくなる、地域に愛されるお店。お菓子づくりからお店の在り方すべてを、ここで働く全員で意見を出し合って作ってきました。お菓子屋さんには様々な仕事があり、それを皆の得意なことに合わせて分担しています。

思えるデイサービス」。2017年、念願の「畑が目の前にある」家屋に移転しました。まるでここだけゆっくりと時間が流れているような、昔ながらの農家の風景。利用者さんが機能訓練の一環として農作業に関わり、その日に畑で採れたばかりの朝採れ野菜を使った、この上ないくらい新鮮で健康的で、そしておいしいランチを皆で食べます。梅ジュースを作ったり、干し柿を作ったりと、季節の移り変わりをみんなで共有します。いくつになっても、生き活きと充実して過ごせる場所を目指しています。



共にする仲間とつくった、仕事おこしと地域づくりの

林業から地域全体の課題解決を目指して

Next Green但馬 / 兵庫県豊岡市

はじめは、ワーカーズコープが提案・受託した兵庫県の公共職業訓練「新エネルギー・環境コース」。訓練の中で林業の後継者不足や森林環境の荒廃、それを「どうしようもない」と諦めている地域の実態が見えてきました。そこで訓練生が主体となり「Next Green 但馬」を立ち上げました。目標は「次世代に遺す山づくり」。山を育てながら、地域の資源として木材を活用する林業を始めました。間伐や危険木の伐採、薪や木工品づくりを行いながら事業を通して感じたことは、山主の方々だけでなく地域みんなにもっと山を知り親しんでもらうことが必要ということでした。そんな中、組合員の中から、整備した森や自然を活用し、自然の中で子どもが主体的に育つ保育ができる「森のようちえん」を立ち上げたいという声が上がりました。豊岡市とも連携しながら立ち上げました。森や山だけを見るのではなく、街やそこに住む人々と繋いで、地域全体の課題の解決や暮らしをつくることへ活動の幅が広がっています。



障害・生活困窮者支援事業

私たちのお店は皆の力の結晶です。だからお店を、お菓子を褒めてもらったとき、皆でその喜びをわかち合えます。おかげさまで、2023年4月には2号店を出店しました。障がいの有無に関係なく、誇りに思える仕事と生き方ができる、そんな職場と地域をこれからも作っていきます。



誰もが居場所のある街をつくりたい。

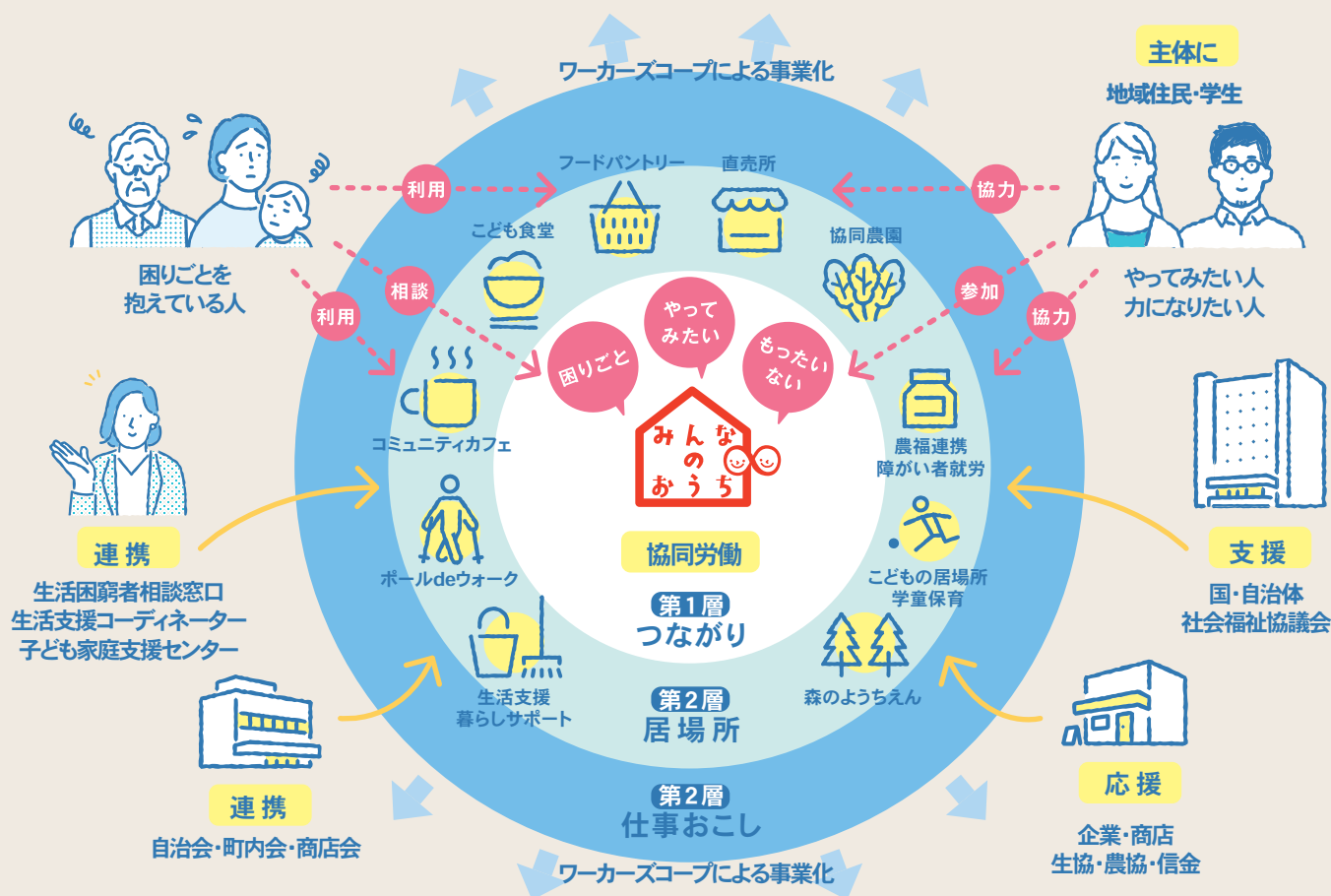
上田事業所 / 長野県上田市

上田事業所では上田市内26か所の子育て施設を運営しながら、「子どもを地域の真ん中に、誰もが安心して暮らせる未来へ」を目標に、地域の大学生・高校生を始め様々な人たちと一緒に、誰もが集える地域の居場所づくりと地域に必要な仕事おこしに取り組んでいます。中高生がいつでも使えるスペース「COCOON」では、市内の高校生が主体で運営する子ども食堂「おけまる食堂」、中高生の集い場で200を超えるボードゲームを揃える「ボードゲームカフェBlokus」を、定期的に開催しています。不登校の子どもがいつでも来ることができる「上田おけまるジュニアセンター」では大学生・高校生の協力で学習支援も行っています。役目を終えた制服の預かり・安価での販売を行う制服バンク、みんなの居場所であり貸しスペース「みんなのおうち桑の葉」は書道教室や養蚕文化継承活動の拠点にもなっています。その他地域の困りごと支援チーム「万屋営繕NEXTBLOCKS」、デザイン工房「ORIKAMI」など、地域のニーズと地域の力を繋ぎ、市民が自分たちで暮らしを支え合い力を活かしよう地域づくりを様々な形で広げています。



全国に 「みんなのおうち」が 続々と生まれています。

地域の「困りごと」や、「やってみたい」、「もったいない」が集まり、
支え合い、様々な取り組みが生まれる場所。
それが、「みんなのおうち」です。



あそこへ行けば何とかなる。声が出せて、「やってみたい」を叶える居場所

失業や生活の困難・地域で孤立する人が増えている中で、命を守り支え合う仕事と居場所が求められています。「みんなのおうち」は身近な地域で気軽に相談ができ、安心できる居場所です。

そして「困りごと」や「やってみたい」、「もったいない(空き家や休耕地の有効活用など)」をもちよって、一人ひとりの願いを大切に受け止めあい、協同労働を活かして、仕事おこしの種を力を合わせて実らせていきます。

障がいのある人たちから高齢者まで 誰もが気軽に集い助け合う地域拠点 「いこいの家 英」^{はなぶさ}

大阪府和泉市

「障がいのある人たちの居場所がほしい」という願いをもつ方々と、協同労働の推進や助け合い活動に取り組む地域の人たちが出会い、「みんなのおうち」づくりの取り組みが始まりました。建設メンバーは、障がい者農園(滋賀県)や山村活性化(奈良県)に取り組む団体を視察し、構想を膨らませてきました。そしてそのメンバーお1人のご厚意により、土地・建設費を提供いただき、2022年9月、地域拠点「いこいの家 英」^{はなぶさ}がオープン。コミュニティ喫茶、パン・野菜販売、貸し室、障がい者や高齢者などのいこいの場、各種講座の開催などを行っています。センター事業団は構想段階から「英」に関わり、障がいのある方々の生きがいの創造や、協同労働による仕事おこしを展望しています。



「お手伝い」から地域の支え合いへ 「みんなのおうち らんか」

印西事業所 / 千葉県印西市

「みんなのおうち らんか」はワーカーズコープ印西事業所が、地域にある基会所の方とつながり場所を貸していただいたことから始まりました。地域の農園や古民家カフェの協力を頂き、イベントや子どもたちの体験交流会等を始めたほか、柱としたのはT・T・K(ちょこっと・てつだい・かたづけたい)事業です。高齢の方の庭木の手入れや家の片づけ、地域の方のつながりづくりなど、制度事業ではカバーしきれない困りごとを地域の皆さんに協力いただきながら支え合いの仕組みづくりを始めています。行政・大学・町会や様々な団体・個人が手を繋いで、地域の問題を解決し、皆が自分の夢を実現できる地域の存在となるよう活動しています。



あなたの街に、 みんなのおうちをつくりませんか？

困りごとの声をあげやすく、誰かの役に立てる、どんな人も気軽に集まることができる居場所「みんなのおうち」は、あなたの地域に、あなた自身でつくることもできます。「まちづくり講座」や「地域懇談会」を企画して動き出してみましょう。思いを分かち合えば仲間が見つかるかもしれません。力を合わせれば何かを始められるかもしれません。

「みんなのおうち」のつくりかた

- ☒ まずは連絡を。全面的に支援します
→ **ワーカーズコープに連絡する**
- ☒ 地域のニーズや仲間が集まります
→ **「まちづくり講座」を開催する**
- ☒ 話し合いであなたの地域の「みんなのおうち」を作ります
→ **「みんなのおうち」をつくる**

地域のための、はじめての一步「まちづくり講座」

自分の地域にみんなのおうちを作りたいと思ったら、まず「まちづくり講座」を企画しましょう。関心がある人が集まり仲間と出会えます。そしてみんなで地域の困りごとや夢を語り合い「みんなのおうち」を形作っていきます。私たちは「まちづくり講座」の開催を全面的に支援しています。お気軽にご連絡下さい。



「協同労働」という 新しい働き方を 実践しています。

働く人ひとりひとりが主人公となって力を合わせ、
お互いを認めあい、支え合いながら、
持続可能な地域の未来を
自分たちの手でつくっていく働き方です。

大切なのは 3つの協同

すべての人と地域の中でともに生き、ともに働く
社会を実現するために、これまでワークス
ユープが実践の中でつくり上げてきた協同労
働。そこには、3つの協同という大切な視点が
あります。

働く一人ひとりが出資し、
主体者として事業経営にも責任を負い、
働く者どうしも支えあって協同して働きます。

①
働く者どうし
の協同

地域再生や
まちづくりを
協同労働で実現

②
利用者・家族
との協同

③
地域との協同

「サービスを受ける人、提供する人」の垣根を取り払い、
利用者と家族もよりよい事業所づくりを実現するための
パートナーとして位置づけ、
皆で一緒に創り上げる姿勢を大切にします。

地域とともに。
事業所の事業活動への協力をお願いすることにとどまらず、地域住民らの困りごとを受け止めて、
一緒に解決へ向けた道筋を探究します。



労働者協同組合で 持続可能な 未来をつくれます。

労働者協同組合とは、
働く人がみんなで出資し、
一人ひとりの意見を反映して運営を行い、
よい仕事や地域づくりを目指してともに働く、
協同労働を実現できる法人格です。



労働者協同組合法が制定されました。

2020年12月4日、労働者協同組合法が制定され、要件を満たせば誰でも労働者協同組合を設立し、法人格を得ることができるようになりました。一人ひとりの主体性と意見を大切にしながら、社会から必要とされる仕事を働く人たちが力を合わせてつくることのできる「協同労働」にふさわしい法人のあり方が、これから社会に広がっていきます。

労働者協同組合法、3つの基本原理。

労働者協同組合には組合員による自主的・自律的かつ民主的な事業経営を可能にするために、3つの基本原理が定められています。

- ①出 資 組合員の出資金によって事業経営を行うこと。
- ②意見反映 組合員の意見を反映して事業を行うこと。
- ③事業従事 組合員が組合の行う事業に従事すること。

労働者協同組合法 第1条

この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等を踏まえ、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする。

ともに生き、 ともに働く 協同労働を 実践しています。

自分たちで目的を決め、
互いの力を生かし合い、
地域のために力を合わせる
「協同労働」。
実践を通して得られた組合員の
「実感」を語ってもらいました。



協同労働の実践事例

願いを叶える働き方。

恵庭地域福祉事業所は高齢者の支援、障がい者の支援、子ども・子育ての支援を軸とした指定管理や制度事業を行ってきましたが地域には私たちの事業だけでは解決しない課題がたくさんありました。

そこで私たちに何ができるか地域の方と相談し、できることから着手することにしました。

2022年4月から始まった「おかめカレー」は、子ども食堂にボランティアとして参加していた方が、余ったカレーを知り合いに届けたところ大変喜ばれたところから始まりました。「もっとお互いに支え合う

協同労働の実践事例

経営が、自分ごとに。

亘理事業所 / 宮城県亘理町

所長 大久保千絵美



亘理事業所は東日本大震災後に被災地に緊急雇用創出事業で立ち上げた、障がい者の就労継続支援を行う多機能型福祉施設です。協同労働なんて何も知らないまま入団した当初の私は、ただ就労支援員として給料をもらえればいいや、という感覚で働いていたのですが、当時の所長から突然、「今後移動販売が必ず必要になるから担当してほしい」と言われました。楽なデスクワークと考えていた私には野菜の販売をするなんて受け入れられず、渋々取り組んでいました。

そんな中、国の事業も打ち切りとなり、事業所は資金難で継続できるかどうか分からない状況に差し掛かります。

その噂を聞いた利用者さんのお母さんから「うちの子のためになんとか続けてもらえないか?」と涙ながらに相談を受け、その時に自分は何のためにこの仕事を始めたのか、障がいのある人のために働きたいという初心を思い出し、ようやくスイッチが入ったのです。

経営難から逆転させてやる! 利用者さんの居場所を守る! と決心したら、ものの見方が変わりました。自分ひとりの好き・嫌いではなく、どのような働き方をすればよいか常に経営目線で考え、仲間と一緒に話し合い、行動をするようになると徐々に成果がついてくるようになり、ついには経営が右肩上がりに。事業所の皆にも協同労働が根付き、地域のため、利用者さんのために事業所がひとつになることができました。

恵庭地域福祉事業所 / 北海道恵庭市

地域を創りたい」という思いが芽生え、カレーの宅配を始める」と「家事の負担が減って助かる」「カレンダーに印をつけるほど楽しみ」との声。配達を通してご近所同士、変化に気づいたり悩みを相談されたりすることもあります。カレーをきっかけに地域のつながりが生まれてきました。評判が広がって配達件数も増え、活動の仲間も増えました。活動を通して気づいた地域の課題などを共有する集まりも開催しています。

地域に住む人の想いや願いをみんなの力で形にし、共感の輪を広げて、もっと暮らしやすい街をみんなで実現します。

不安とつきあいながら働ける、寛容さを大事にする職場。

私は大学で就職活動に挫折し、卒業後2年間をニートとして過ごしました。社会に出て一人前の仕事を担うということに恐怖を感じつつも、一方で将来への不安や無為徒食の罪悪感に苛まれていました。そうした不安に耐えられなくなりハローワークを訪ねました。そこで地域若者サポートステーションを紹介され、その後職場体験として富山北部事業所へ行くことになったのです。最初の見学の際、所長から「ここではいろいろな事情を抱えた人

富山北部事業所 / 富山県富山市

Aさん



が働いていて、それぞれ自分に合った働き方をしているから、もっと気楽にしていよ」と言われ、その寛容さが魅力でした。働き始めた私は清掃業務と接客業務も担当するようになり、何度も失敗をしたり、体力不足を感じたりしながらも、事業所の仲間だけでなく、施設の職員さんやお客様など多くの人に優しく接してもらって、少しずつ働くことへの不安を克服していきました。今でも心の中に不安な気持ちはありますが、仲間にも助けてもらえるから大丈夫だと考えることができるようになり、そして、自分が優しくしてもらったように、誰かが大変なときは助けてあげようという心がけながら、日々の仕事に取り組んでいます。

おたがいさまの働き方。

GO!上田事業所 / 長野県上田市



児童館の児童クラブ職員として働き始めた私は、あるお母さんから「子どもに障がいがあるため、離れた養護学校へ行かせることになる」と悩む姿を見て、地域で育てたいという思いを叶えるため、放課後等デイサービスGO!を立ち上げました。最初はその親子のために始めたのですが、1年目で定員がいっぱいになり、地域の要望を受けて2つめの施設を開設。誰かがそれを求めるとき、その背景に多くの求める人たちがいることを実感します。GO!で生きづらさを抱える若者と触れていくうちに、「こうでなければならない」という考え方にとらわれている自分に気が付いたのです。みんな違う事情を持っている。だから「普通」なんてどうでもよくて、その子を認めることが大事なんだと。それは子どもたちも、一緒にGO!で働くスタッフも同じです。みんな事情を持ってるんだから、みんなお互いさま。一人一人の事情に合わせた仕事をする。急に休むことになっても、みんな認めて、時には利用している子どもたちにも協力してもらおう。一人一人できることをやっていると、苦手があっても大丈夫。お互い様の仕事で大丈夫。無理をせず、お互い様で助け合って働いています。私たちは専門家ではないし、専門的なことを学んだわけでもありません。知識がなくても、仲間たちと話し合い、一緒に研修を受け、学びながら歩んでいます。もちろん不安になることもありますが、子どもたちの笑顔に救われています。

話し合いをあきらめない。

東葛事業所 / 千葉県流山市



ここ東葛事業所はワーカーズコープが最初に立ち上げた、始まりの事業所です。病院の清掃、設備の点検、電話交換、リネン業務、などの多様な業務を、障がいを持っていたり、それぞれ人生の課題や家庭の事情があるなど、様々な背景を持った人たちで手分けして回しています。だから意見の不一致がよく起こります。そういった問題を解決するために大切にしていることは、話し合いです。しつこいくらい話し合いをします。始めはみんな不器用で、お互いに傷つけあってしまうこともありました。それでも諦めずに、話し合いをしようと呼びかけています。大事なことは、相手を傷つけないよう、お互いに気をつけ合うこと。遠慮はいらない、けれども配慮をしよう。話し合って、異なる人生観や価値観を認め合って、皆がりのままの自分でいられる職場づくりに日々取り組んでいます。



協同労働、 35年の実践。

ワーカーズコープについて

ワーカーズコープ連合会の加盟組織である、ワーカーズコープ・センター事業団は2022年12月13日に設立から35年を迎えました。

ワーカーズコープ・センター事業団は「モデルとなる労働者協同組合を自分たちの手で作ろう」と、ワーカーズコープ連合会が1982年に設立した直轄事業団をルーツとしています。日本で初めて労働者協同組合の実践を創り、社会に大きく広がる原動力の一つとなりました。現在は就労者が10,000人を超える労働者協同組合です。

2022年10月1日に労働者協同組合法が施行され、ワーカーズコープの新たな歴史が始まりました。持続可能な地域をつくるのは、働く者・市民自身。ワーカーズコープはこれからも地域の存在となり続け、地域の必要に応じていきます。

あなたの夢を、ワーカーズコープで叶えませんか？

ワーカーズコープ・センター事業団の組合員となって、地域の課題やニーズに応える仕事おこしに挑戦しませんか？ これまでにも多くの事業所がこの方法で誕生しています。一人では不安や困難にぶつかるかもしれませんが、ワーカーズコープの仲間たちがあなたを応援し、相談に乗ります。



共に生き、共に働く 社会を目指して

メッセージ

2022年10月に労働者協同組合法が施行され、私たちワーカーズコープ・センター事業団も労働者協同組合法人への移行をいたしました。

法制化は私たちの予想を超えて、地域に前向きな変化を起こしており、改めて協同労働が法制度として社会化された意味の大きさを実感しています。

労働者協同組合法の第一条には「協同労働」という言葉は出てきませんが出資・従事・意見反映という形で定式化された新しい働き方である協同労働が、社会的に地歩を得ていく可能性を感じさせます。

ワーカーズコープ・センター事業団も、これまで子育て・高齢者ケア・障がい児者ケア・困窮者支援に取り組んでいる事業者等、特定の事業分野の関係であったものが、分野を超えた「地域社会そのものをどう創造するのか」という、労働者協同組合法人の特徴である「地域づくりの事業者」としての社会的な認知を得ていく責務を担っています。

法施行後、たくさんの労働者協同組合法人が全国で立ち上がっています。業種は様々で、キャンプ場の運営や空き家の管理、中には音楽イベント企画運営など、多様な事業領域に発展する可能性を感じます。

「協同労働」は、働き方や働く仲間の関係等、これまで漠然と「みんなで力を合わせて仕事がしたい」と考えていた方々に人間の基本的な営為である「労働の世界」に「自立と協同」という新しい息吹を吹き込んで、「励ましあい・学びあい共に成長していく...そんな働き方ができるんだ」と支持と共感を寄せられているのです。

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
代表理事 平本 哲男

私たちが目指すのは 「新しい公共」

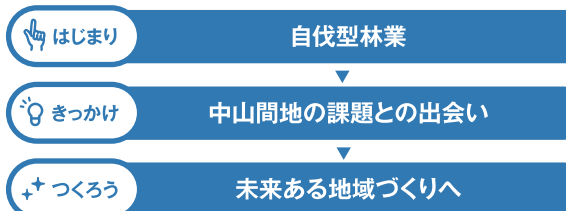
地域が抱える課題への気づきから、
自分たちの力だけではできないことを
行政や市民とともに、みんなで実現します。



新しい公共実践事例_01

林業を始めて分かった 地域の課題。

登米鱒淵事業所 / 宮城県登米市



2014年、登米鱒淵の中山間地域で自伐型林業を開始しました。山主への聞き取り調査や林業研修などを、住民を巻き込みながら取り組んでいると、森林のことだけでなく、人口の減少など地域の様々な課題が見えてきました。また林業以外に村の暮らしを支える様々な仕事があることがわかってきたのです。

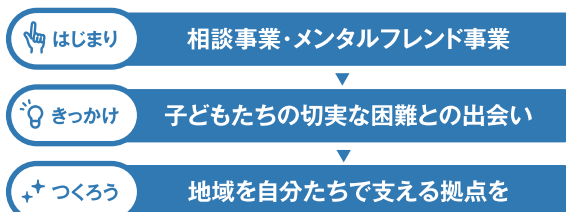
そこで様々なワークショップや研修等を住民と一緒に重ねていき、住民自治推進協議会を立ち上げ、移住したくなる美しい暮らしづくりの取り組みを開始しました。

現在では仙台の子育て施設と連携したデイキャンプや田んぼ活動、農業グループの設立、ブランド製品づくり等に取り組んでいるほか、ひきこもりの若者や障がいを持つ人たちと一緒に働く環境を整備し、里に住む全員で未来のある地域づくり活動を進めています。

新しい公共実践事例_02

地域で育て、 社会で支える子育てを。

江戸川nappa / 東京都江戸川区

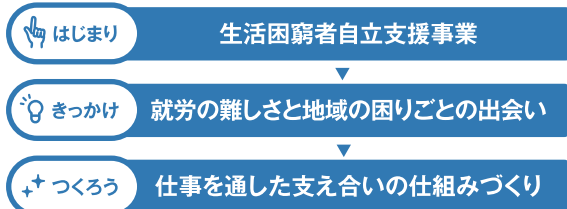


2020年、江戸川区より児童相談所夜間電話相談事業とメンタルフレンド事業を受託しました。虐待・障がいやヤングケアラーなどの困難を抱える子どもたちとの出会いから、親も子も安心して話せる場所としての居場所づくりの必要性を感じ、江戸川区の一軒家に「みんなのおうち」を開設しました。

子ども食堂・カフェ・宿題ルーム・親の交流会・親子講座や、引きこもりの方へのお弁当宅配、フードパントリーなど、分野を限定しない様々な地域の支え合いの活動拠点として活用されています。自治体・学校・保育園・自治会・町内会や市民ボランティアなど地域のあらゆる力を結集し、「地域で育てる、社会で支える」をスローガンとして、地域の方で皆の心の拠り所となる居場所づくりを進めています。

地域の困りごとと 「はたらきたい」を結ぶ

くらし応援ワーカーズSKETCHA / 宮城県登米市



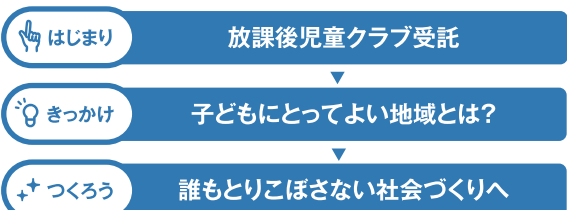
2015年、登米市の生活困窮者自立支援事業を受託しました。

事業を行うにつれ、相談に来る人たちはまず生活の立て直しや社会への復帰が必要だったり、すぐには就労できない人が多く、制度を超えた中間的就労等の支援の必要性を感じるようになりました。一方で地域には家の片付けや農業の人手不足など色々な困りごとがあります。そこで、**困りごとのお手伝いを通した地域の支え合いの仕組み「くらし応援ワーカーズSKETCHA」を2017年から開始しました。**

ゆるやかな関係と確かな実感を伴う「仕事」を通したコミュニケーションを通して、地域のネットワークを広げています。地域の個人だけでなく、企業等からも仕事をいただけるようになりました。**誰もが安心して暮らせる地域を、人と人との結びつきで作っています。**

誰もとりこぼさない社会を 行政・市民とともに。

福井事業所 / 福井県福井市



1999年に開設されたワーカーズコープ福井事業所は2008年から福井市より放課後児童クラブを受託し、現在は14か所を運営しています。

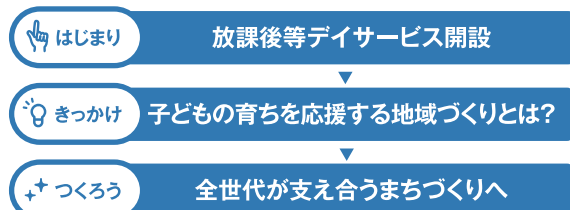
放課後児童クラブを運営していく中で「**子どもにとってよい地域とは?**」との問題意識が生まれ、保護者や地域の方々と話し合いを重ね、子どもを含めた多世代の居場所づくりを始めました。

地域の人と一緒に学習支援や地域カフェなどを立ち上げつつ、「まちづくり講座」を開催し仲間を広げていきました。横断的に地域づくりのセミナーも開いています。

現在は近隣の大学・研究所・地域団体や議員の方とも連携し、自治体から福祉やまちづくりの連携の相談もいただくようになりました。**行政・市民と一緒に、誰もとりこぼさない社会づくりを進めています。**

子どもの育ちを 地域の全世代で支える。

苫小牧ぼっけ / 北海道苫小牧市



苫小牧ぼっけは2013年に放課後等デイサービスを立ち上げました。そこで保護者・市民の方と「障がいのある子どもの居場所づくり懇談会」を立ち上げ、子どもの育ちを応援する地域づくりを目指すこととなりました。

町内会で多世代サロン、コミュニティ居酒屋や秋祭りを開催すると共に、全戸訪問を行い「地域に必要なものを自分たちで創る」という方針を明確にしたのです。

以降、地域の居場所「みんなのおうち Hugぼっけ」、食品・衣類等をシェアする「ばんくとまこまい」、地域食堂「ぼっけごはん」、ひとり親応援プロジェクト「にじぶろ」など、自治体・各種団体等と連携しながら、様々な助け合いの仕組みを作ってきました。**子どもを守るためにも、全世代が支え合うまちづくりを目指して活動しています。**

ワーカーズコープ・センター事業団は、 協同労働運動の牽引役を果たす組織です。

ワーカーズコープ・センター事業団は1982年日本労働者協同組合連合会（当時「中・高年齢雇用・福祉事業団全国協議会」）の直轄事業団として出発しました。1987年に、現組織であるセンター事業団に組織再編し、日本における労働者協同組合づくりという新しい協同組合運動に挑戦してきました。

建物管理・物流・公園管理といった委託事業から始まった私たちの事業は、介護保険をはじめとした高齢者介護、コミュニティセンターや高齢者福祉センターなど公共施設の管理・運営、保育園・学童クラブ・児童館・児童デイサービスなど子育て支援、若者や障がい者・失業

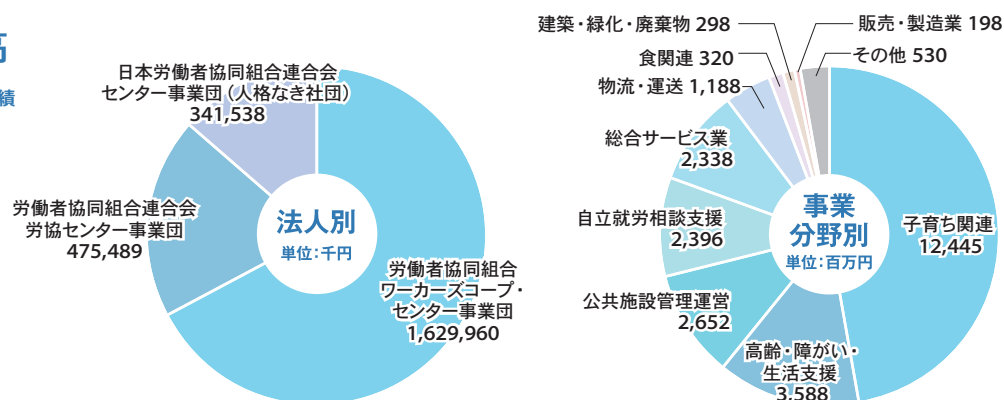
者・生活困窮者などの自立・就労支援などの分野に広がっています。

私たちは、どのような事業においても徹底して「7つの原則」と「3つの協同」にこだわり、働く者と市民の手で地域に必要とされる仕事を起こしてきました。

現在、全国に事業本部をおき、約400の事業所で約10,000人が就労、事業高は約259億円に達しています。一つひとつの事業所・現場が業務的にも経営的にも自立的に運営することを基本とし、全国組織としての強みを発揮できるよう全体で決めた方針に従って全国の成果・教訓を学び合いながら活動しています。

事業高

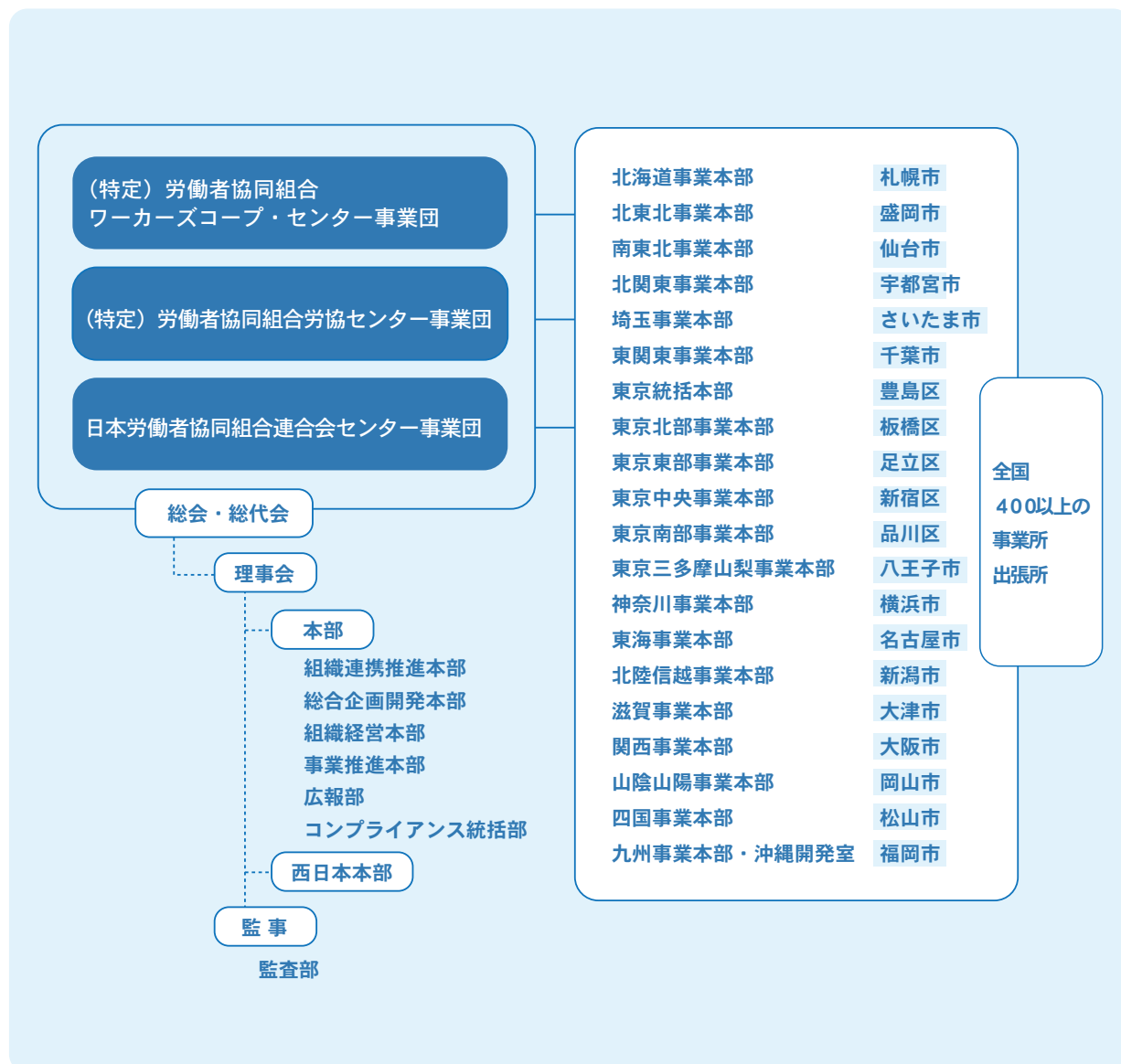
2023年度実績



事業形態

名称・法人格	(特定)労働者協同組合 ワーカーズコープ・ センター事業団	(特定)労働者協同組合 労協センター事業団	日本労働者協同組合 センター事業団 (人格なき社団)
設立年月日	2001年9月13日	1973年2月23日	1982年7月5日
主な業務内容	子育て事業・自立就労相談支援・ 公共施設管理運営等	高齢・障がい・ 生活支援関連等	建物総合管理・ 緑化・物流等
出資金	19億7,560万円	9,260万円	11億5,765万円
2023年度事業実績	162億9,960万円	47億5,489万円	34億1,538万円
センター事業団合算	計 259億5,522万円 (2023年度実績)		
代表者	平本 哲男		
組合員数	7,919人		

ワーカーズコープ組織図



出資について

協同組合では、組合員が出し合った出資金が事業の元手になります。私たちも、「事業に必要な資金は自分たちで出し合い、働いて残す」ことを基本に、銀行等金融機関からの借金をせずに経営してきました。センター事業団では1口5万円の出資で組合員になることができますが、事業の運転資金としては最低でも2～3ヶ月分の資金が必要となります。このことから、組合員一人ひとりが自分の給与の2ヶ月分以上を目標に2口目以降の出資をする「増資運動」に取り組んでいます。

数字で見る ワーカーズコープ

事業所・出張所数

404 箇所

現場数

1,348

組合員数

7,919 人

北海道事業本部

北東北事業本部

南東北事業本部

北陸信越事業本部

北関東事業本部

埼玉事業本部

東京北部事業本部

東京東部事業本部

東京統括本部

東京中央事業本部

東京三多摩山梨
事業本部

東京南部事業本部

東関東事業本部

神奈川事業本部

東海事業本部

滋賀事業本部

関西事業本部

山陰山陽事業本部

四国事業本部

九州事業本部
沖縄開発室

事業高 259 億円

※2023年度

業種別現場数

子育て支援	373
保育(園)	37
障がい児通所施設(障がい児支援)	110
総合支援(障がい者・児支援)	111
障がい児/者支援	9
介護保険・地域生活支援	111
高齢者支援	18
高齢者施設の管理運営	38
若者支援	34

生活・就労・相談支援	20
生活困窮者支援	85
食堂・喫茶・配食	18
施設給食・調理補助	11
配食サービス	6
製造・加工・販売	3
農林業	9
B D F	3
建物管理	195

建物管理関連事業	43
公共施設の管理運営	38
物流関連	16
売店・直売所	14
屋外清掃(公園・霊園清掃)	8
緑化・廃棄物収集運搬	9
クリーンカラー製造・販売	3
講座	5
その他	21

ともに生きるまち、持続可能な循環型の 地域をつくる事業を行っています。



子育て支援事業

「子育て」ではなく「子育て」という視点で、保育園、学童クラブ、親子ひろば、放課後等デイサービス等を運営しています



障がい者支援事業

障がい者の生活面のケアや機能訓練、継続して働く場を地域と一緒につくっています



高齢者関連事業

介護保険法に基づく高齢者福祉サービスや、介護予防、生活支援など高齢者の生活を総合的に支えています



若者自立支援事業

地域若者サポートステーション事業など、若者の生活や就労の自立を支援しています



生活困窮者 自立支援事業

生活困窮者や生活保護受給者等の生活・家計相談、就労訓練、学習支援に取り組んでいます



食・農・森林関連事業

安心安全な食事の提供と、豊かな自然を未来に残すための農業に取り組んでいます



再生可能 エネルギー事業

地域から出る廃食油を回収、バイオディーゼル燃料(BDF)を精製。バスや農機具の燃料にする地球温暖化対策事業



建物総合管理事業

オリジナルの清掃方式による病院や公共施設などの清掃業務、施設管理、ビルメンテナンス事業



コミュニティ施設 関連事業

自治体の委託や指定管理者としてコミュニティセンターなど公共施設を運営。公共施設を地域づくりの拠点として活用する取り組み



中間支援事業

市民活動支援センター等の運営や、労働者協同組合の設立支援を実施しています



協同組合間 連携事業

様々な協同組合組織と連携し、物流センターでの配送業務や庫内作業、生活支援などの業務を受託



社会連帯活動

地域が抱える問題や不安を 地域の人々の輪で解決していきます。

地球環境の危機や災害による被害、格差や貧困の増大による生活不安など、個人の力だけでは解決できない社会問題が広がっています。こういった不安や一人ひとりの願いを、地域をベースにした地域住民の輪によって解決するために、「社会連帯活動」という取り組みを進めました。

個人の参加だけでなく、自治体や公共団体、企業にも参加していただいています。

みんなのおうちが拠点となって 地域の課題に立ち向かいます。

地域の課題と地域の人財や資源を結び、市民の手で地域をつくる拠点が「みんなのおうち」です。

誰でもいつでも立ち寄れて、不安・悩みや願いを話したり、やってみたいことや活用したいことなどのアイデアを持ち寄ります。

協同労働を活かして話し合いの中から様々な市民活動を起こし、仕事おこしの種を実らせていきます。

こども食堂・地域食堂

貧困や格差の拡大、社会的孤立や孤食が広がる中、子どもたちが安心して集える場所、地域の人たちが気軽に立ち寄れる場所、多世代交流の場づくりのために、無料または安価で食事を提供する「こども食堂」「地域食堂」を全国で運営しています。



フードパントリー・フードバンク

安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫などの理由で、流通に出すことができない食品、消費しきれない食品を企業や農家、一般家庭から寄贈していただき、困窮世帯や食料品を必要としている施設・団体に食料品を無償で提供する活動を行っています。



高齢者サロン

独居の高齢者が増加する中、外出の機会の少ない高齢者などを対象に、出会いの場、交流の場、仲間づくりの場として、介護予防や楽しみづくり、生きがいづくりを支援しています。

映画上映運動

持続可能な社会への仕組みづくりを地域の人とともに模索・実践し続けてきたワーカーズコープの取り組みを記録した映画「Workers」等を上映し、協同労働の理解促進と市民主体のまちづくりを呼び掛けています。

関連団体

日本労働者協同組合連合会

<https://jwcu.coop/>

連合会は、センター事業団のほか、全国各地で活動している労働者協同組合、協同労働を志向する団体や企業が加盟。加盟組織同士の連携や交流を目的とした全国会議や研修の開催、新たな労働者協同組合の設立支援や運営・財政支援、また国・自治体に対する政策提言や国際連帯活動など日本の労働者協同組合を代表して活動を行っています。

日本高齢者生活協同組合連合会

<http://koreikyo.jp>

「寝たきりにならない・しない」「元気な高齢者が、もっと元気に」をスローガンに掲げ、「仕事」「福祉」「生きがい」を活動の柱に据えて、高齢者の社会参加と地域福祉の充実に取り組んでいます。都道府県単位で設立された17の高齢協が加盟しており、加盟団体の組合員数合計は約5万人、事業高の合計は約70億円となっています。

協同総合研究所

<https://jicr.roukyou.gr.jp/>

競争原理がもたらす人類の危機を乗り越える「協同」の思想と実践を研究するために1991年3月にワーカーズコープ連合会の下に設立されました。研究者と実践者の協同により、労働者協同組合・協同労働を中心に、多様な分野にわたる「協同」を研究しています。所報『協同の発見』を発行し、協同労働を活用した仕事おこし・まちづくりの可能性の探求に力を入れています。会員数は約500名で幅広い市民が参加する研究機関をめざしています。

日本フロンティアネットワーク

<http://www.jfn-network.com/>

労働者協同組合の理念・活動に共感し連携・連帯する企業・団体・市民のネットワーク組織です。1999年に労働者協同組合を応援する一般企業によって「東京労協クラブ」として設立され、2010年に一般社団法人となりました。仕事おこし・地域社会への貢献と互いの事業の発展を通じて労働者協同組合とともに社会と地域の再生をめざす新しい事業の研究・企画・開発に挑戦しています。

日本社会連帯機構

<https://rentai.roukyou.gr.jp/>

安心して暮らし続けられる持続可能な地域社会の実現に向けた社会的連帯を広げることを目的に2004年に設立、2010年に一般社団法人を取得。現在（2023年）個人会員7800人、団体会員25団体が加入し全国1万か所のおうちのづくりを目標に多くの地域に居場所と活躍の場（仕事）をつくり出す活動に取り組んでいます。

HISTORY

ワーカーズコープ・センター事業団 活動の歴史

- 原点**
- 1971** 兵庫県西宮市で高齢者事業団が誕生
- 1973 「やまて企業組合」(のちの「企業組合労協センター事業団」)設立。
- 1979 全国から36の事業団が集い、「中高年雇用・福祉事業団全国協議会」が結成される。
- 1982 全国協議会が直営する「直轄事業団」を設立。
- 1986 全国協議会第7回総会において、労働者協同組合組織への発展を決定。協議会から連合会へ。
- 設立**
- 1987** 直轄事業団と東京事業団が統合し、モデル労協としての「センター事業団」設立。
- 1992** 「新7つの原則」を定める。連合会が国際協同組合同盟(ICA)に加盟。
- 1993 映画『病院で死ぬということ』を製作。全国で上映運動に取り組む。
- 1994 地域福祉事業所第1号開所。
- 1995 三重県で全国初の高齢者協同組合が誕生する。
- 1997** 「協同労働の協同組合」を定義。
- 1998 「労働者協同組合法制定運動推進本部」発足。
- 2000 「協同労働の協同組合」法制化を目指す市民会議発足。
- 2001 特定非営利活動法人ワーカーズコープ設立。
- 2002 連合会第32回総会において、協同労働の協同組合としての「新原則」が定められる。
- 2003 東京で学童保育室をスタート。子育て支援事業を本格的に開始。
- 2004 「社会連帯委員会」設立総会。東京で初めて指定管理者として公共施設の管理・運営を担う。
- 2005 東京都で初めて公立保育園を運営。
- 2006 「国民生活白書」でワーカーズコープが紹介される。
- 2007 地域若者サポートステーションを受託。
- 2008 協同出資・協同経営で働く協同組合法(仮称)を考える議員連盟が発足。
- 2009 再生可能エネルギー事業に参入。
- 2010 埼玉県より生活保護受給者の自立・就労支援事業「アスポート事業」を受託。
- 2012 全国で放課後等デイサービス(障がい児の居場所)開設。映画『Workers』公開。
- 2013 兵庫県で自伐林業を開始。農、林業分野を通じた循環型地域づくりが始まる。
- 2014 「協同労働の協同組合」の新原則が制定。広島市で「協同労働プラットフォーム」事業受託。
- 2015 全国で子ども食堂の取り組みが広がる。
- 2016 地域住民による仕事おこしが広がる。
- 2017** センター事業団30周年。
- 2018 映画『Workers 被災地に起つ』公開。
- 2019 協同総合福祉拠点「みんなのおうち」を展開。
- 新生**
- 2020** 労働者協同組合法が成立。
- 2021 映画「医師中村哲の仕事・働くということ」公開。
- 2022** 労働者協同組合法が施行。
- 2023** 労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団設立。
- 2024** 労働者協同組合 労協センター事業団設立。

宣言

私たちは、発見した。
雇われるのではなく、主体者として、
協同・連帯して働く
「協同労働」という世界。
一人ひとりが主人公となる事業体をつくり、
生活と地域の必要・困難を、働くことにつなげ、
みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合う。
そんな新しい働き方だ。

私たちは、知った。
話し合いを深めれば深めるほど、
切実に求められる仕事をおこせばおこすほど、
労働が自由で創造的な活動になればなるほど、
人間は人間らしく成長・発達できる、ということ。

私たちは、直面している。
人間、労働、地域、自然の限りなき破壊に。
だからこそ、つくり出したい。
貧困と差別、社会的排除を生まない社会を。
だれもがこころよく働くことができる完全就労社会を。
あたたかな心を通い合わせられる、
平和で豊かな、夢と希望の持てる新しい福祉社会を。

私たちは、宣言する。
「失業・貧乏・戦争をなくす」という先人たちの誓いと、
「相互扶助」「自治と連帯」「公平と公正」という
国際的な協同組合運動の精神を引き継ぎ、
協同労働を基礎にした社会連帯の運動を大きく広げ、
市民自身が地域の主体者・当事者となる、
自立と協同の新しい時代をいま、ここに、共に、切り拓くことを。

原則

協同労働の協同組合は、共に生き、共に働く社会をめざして、
市民が協同・連帯して、人と地域に必要な仕事をおこし、
よい仕事をし、地域社会の主体者になる働き方をめざします。
尊厳あるいのち、人間らしい仕事とくらしを最高の価値とします。

1 仕事をおこし、よい仕事を発展させます

- (1) 生活と地域の必要と困難、課題を見出し、人と地域に役立つ仕事をおこします。
- (2) 働く人の成長と人びとの豊かな関係性を育む、よい仕事を進めます。
- (3) 仕事と仲間を増やし、働く人の生活の豊かさと幸せの実現をめざします。

2 自立・協同・連帯の文化を職場と地域に広げます

- (1) 一人ひとりの主体性を大切に育てる職場と地域をつくります。
- (2) 建設的な精神で話し合い、学び合い、連帯感を高めながら、みんなが持てる力を発揮します。
- (3) お互いを尊重し、一人ひとりの生活と人生を受け止め合える関係をつくります。
- (4) 人と地域を思いやる「自立・協同・愛」の文化を職場と地域に広げます。

3 職場と地域の自治力を高め、社会連帯経営を発展させます

- (1) 全組合員経営を進めます。
 - ① 働く人は、基本的に全員が出資し、組合員となり、出資口数にかかわらず「一人一票」で経営に参加します。
 - ② 組合員は、「話し合い」と「情報の共有」を大切にし、事業計画を定め、事業経営を発展させます。
 - ③ 組合員は、役員やリーダーを基本的に組合員の中から選び、お互いに協力し合います。
- (2) 社会連帯経営を発展させます。
 - ① 組合員と利用者・地域の人びとが、地域づくりの主体者としての連帯性をめ、仕事をおこします。
 - ② 地域全体を視野に入れ、全ての世代を結んで地域づくりのネットワークを広めます。
 - ③ 当事者・市民主体の豊かな公共をめざし、自治体・行政との協同の関係を築きます。

4 持続可能な経営を発展させます

- (1) 事業の継続性を高め、新たな仕事をおこすために、赤字を出さず、利益を生み出します。
- (2) 経営の指標と目標をみんなで定め、守ります。
- (3) 事業高の一定の割合を事業と運動の発展のための積立金として積み立てます。

5 人と自然が共生する豊かな地域経済をつくり出します

- (1) 地域の資源を生かし、いのちの基礎となる食・エネルギー・ケアが自給・循環する社会を地域住民と共に創造します。
- (2) だれもが安心して集え、役割の持てる居場所を地域につくり出し、総合福祉拠点へと発展させます。

6 全国連帯を強め、「協同と連帯」のネットワークを広げます

- (1) 協同労働の協同組合の全国連帯を強め、運動・事業の経験を交流し、学び合います。
- (2) 各種協同組合との間に「まちづくり・仕事おこし」の提携・協同を強めます。
- (3) 市民組織や事業体、労働団体、大学・研究所、専門家等と連携を強め、いのち・平和と暮らし、人間らしい労働、基本的人権、民主主義を守り、発展させます。
- (4) 労働と福祉を中心とする制度・政策をよりよいものにしていきます。

7 世界の人びととの連帯を強め、「共生と協同」の社会をめざします

- (1) ICA（国際協同組合同盟）への結集をはじめとして、国際的な協同組合運動に参加し、発展させます。
- (2) 協同労働の協同組合とその運動を、東アジアを焦点に世界的に発展させます。
- (3) 戦争や環境破壊をはじめとする人類の危機を直視し、「資本のグローバル化」による大量失業と人間の排除に対して、「民衆のグローバルな友好・連帯」を強めます。



労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団

日本労働者協同組合(ワークスコープ)連合会センター事業団
労働者協同組合 労協センター事業団

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7階
Tel:03-6907-8030 Fax:03-6907-8031
<https://www.workers-coop.com/>

北海道事業本部	〒060-0062 北海道札幌市中央区 南2条西10丁目6-2 PPCビル7階 Tel:011-280-5225 Fax:011-280-5226	神奈川事業本部	〒231-0045 神奈川県横浜市中区伊勢佐木町 2-66 満利屋ビル8階 Tel:045-341-4192 Fax:045-260-5558
北東北事業本部	〒020-0032 岩手県盛岡市夕顔瀬町8-17 SFIビル Tel:019-681-2091 Fax:019-681-2092	東海事業本部	〒461-0003 愛知県名古屋市中区筒井2-10-38 クルマミチdkcビルディング4階 Tel:052-222-3850 Fax:052-222-3851
南東北事業本部	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 2丁目19-21 CST共立ビル4階 Tel:022-398-4975 Fax:022-398-4973	北陸信越事業本部	〒950-0965 新潟県新潟市中央区新光町6-2 勤労福祉会館内4階 Tel:025-384-8222 Fax:025-384-8224
北関東事業本部	〒320-0863 栃木県宇都宮市操町3-10 Tel:028-611-3544 Fax:028-611-3765	滋賀事業本部	〒520-2153 滋賀県大津市一里山1-6-23 いづみビル3階 Tel:077-599-4702 Fax:077-599-4703
埼玉事業本部	〒336-0018 埼玉県さいたま市南区南本町 2-5-15M.M.オフィス201号 Tel:048-844-0085 Fax:048-844-0086	関西事業本部	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-19-15 第3三ツ矢ビル9階 Tel:06-6476-7864 Fax:06-6476-7865
東関東事業本部	〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉 2-6-3 エミネンス新千葉1階 Tel:043-306-7514 Fax:043-306-7518	山陰山陽事業本部	〒700-0826 岡山県岡山市北区磨屋町1-1 サンホーム岡山駅前ビル301 Tel:086-235-5755 Fax:086-235-5758
東京統括本部	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7階 Tel:03-6907-8035 Fax:03-6907-8038	四国事業本部	〒790-0924 愛媛県松山市南久米町318-1 Tel:089-968-1612 Fax:089-968-1613
東京北部事業本部	〒175-0094 東京都板橋区成増1-12-20 斉藤ビル101号室 Tel:03-5967-1248 Fax:03-5967-1266	九州事業本部 沖縄開発室	〒812-0043 福岡県福岡市博多区堅粕4-24-14 トステムビル401号 Tel:092-441-7587 Fax:092-441-8281
東京東部事業本部	〒120-0025 東京都足立区千住東2-20-11 熊谷ビル2階 Tel:03-6806-1567 Fax:03-6806-1568		
東京中央事業本部	〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-4-7 東京DEW Tel:03-5937-2632 Fax:03-5937-2652		
東京南部事業本部	〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-10 大森レインボービル7階 Tel:03-5767-6517 Fax:03-3768-1315		
東京三多摩山梨 事業本部	〒192-0082 東京都八王子市東町5-5 事業本部 ハルズ八王子4F Tel:042-649-8801 Fax:042-649-8802		